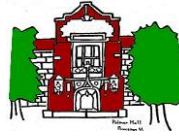


ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.30号

平成24年12月16日

文責 長尾重範

冬蜂の 死にどころなく 歩きけり 鬼城
海に出て 木枯帰る ところなし 誓子

秋祭り（ハリケーンのため延期して実施）の日

行事予定表

- 1月6日 書き初め
文部科学省国際教育課長視察
- 1月13日 書き初め
Pコース・高等部入学説明会
- 1月20日 書き初め（幼稚部）書き初め展示会
- 1月27日 JASL Fall 終了(2月3日 Spring 開始)
- 2月10日 新小1入学者合同説明会

学芸会・学習発表会を終えて

12時から学芸会が行われました。さくら組ゆり組ばら組とも一人ひとりがしっかり表現できて感心しました。先生の日頃の指導とともに、おうちで親子でしっかり練習してきた努力が感じられるすばらしい発表でした。特に年長さんはとても堂々としていて、小学校にあがる準備が十分できているように見えました。かわいくてみんなが楽しんだ大成功の発表でした。

13時40分からは学習発表会が行われました。全体に驚いたのは、誰もが練習時間が乏しいにもかかわらず、きちんと本番に帳尻を合わせて、立派に役を演じたことです。また、脚本を用意した先生方の人知れず取り組まれた努力と苦労を想像しないわけにはいきません。しっかりした脚本になっていました。

音響係と会場係のお母（父）さんの機敏な動きが全体の雰囲気を引き締まったものにしていました。音出しのタイミングもよくできていましたし、幕間の出入りもさすがにきびきびしていました。各クラスの黒子役も大活躍でした。司会者の発声も後ろまでよく聞こえましたし、幕間を引き締めて、間延びさせずにスムーズでよかったです。

自分たちの演目以外の時間に座席で鑑賞する姿勢も立派でした。自分たちの発表だけでなく多くの素晴らしい劇を見ることができましたので、来年はさらに高みを目指して頑張りましょう。

なお、終了時刻が大幅に繰り上がったのは、上記のように皆さんのそれぞれの努力の結果なのでとてもよかったです。席を離れている間にわが子の演技が済んでいて、見られなかった保護者が居られたことについてお詫び申し上げます。

コネティカット州小学校での銃乱射事件

12月14日に26人が犠牲になるという痛ましい事件が小学校で起きました（母親も自宅で犠牲になり本人は自殺）。小学生が20人も犠牲になるという最悪の事件は閑静な地域で起きました。アメリカが銃社会であり、私たちの住んでいるところもその危険の可能性を持っていることを改めて実感させました。

私たちの学校は大学構内にあるとはいえ、銃からの危険がないとは言えないことを肝に銘じて、警戒を怠らず、子どもたちの安全のために、これまで以上に用心をしていきたいと思えます。特に外部からの侵入に対して誰もが気配りを怠らないように、よろしくお願いします。

心シリーズ（5）「共感の心」

『徒然草』（第117段）に、「友とするにわろき者七つあり。一つには高くやんごとなき人、二つには若き人、三つには病なく身つよき人、四つには酒を好む人、五つには武く勇める兵、六つには虚言する人、七つにはよく深き人。よき友三つあり。一つには物くるる友、二つにはくすし、三つには知恵ある友」とあります。

十代でこの文章に出会って今でも記憶に残っているのは、一つ一つよく共感できたからだろうと思えます。特に印象深いのは友としてよくないのは「病なく身つよき人」だという箇所です。私が病や悩みを抱えているときに、「そんな苦しみなどわからないし大したことはないよ」と言われる友よりも、「自分も経験があるしとても辛いと思うけれど、辛抱していると、きっとよくなるから」と言ってくれる友の方がありがたいと思うのです。因みに、前述の文章は吉田兼好のオリジナルではなくて、『論語』（孔子）の内容に依っているそうです。

友を励ますことの難しさを感じる人は多いと思えます。癌を患って死の恐怖におびえている友に、どんな言葉で慰めることができるのでしょうか。最愛の身内を亡くした友にどんな言葉をかけてあげることがよいのでしょうか。多額の負債をかかえて生きる希望を失いかけている友にどう励ませるのでしょうか。これらの危機に、癌の地獄を経験し乗り越えた人、自分も身内を失った経験のある人、倒産という地獄を経験した人の言葉がありがたいと思えます。

その人たちの共感する心から発する言葉にはどのような力が秘められているのでしょうか。共感する心の奥深さを考えました。

